

歓喜院聖天堂

聖天堂は、歓喜院の本殿で妻沼聖天山歓喜院精神の中心です。本殿の外壁には一般人の啓蒙を目的とした色鮮やかな彫刻が施されており、仏教の教えや寓話、伝統的な中国文化の側面や縁起の良い動物が描かれています。本殿には、夫婦和合・子授け・福德の神で、ヒンドゥー教の神ガネーシャの仏教版である聖天（歓喜天）が安置されています。聖天堂は、国宝に指定されています。

本殿は、前方にある拝殿と後方にある奥殿に加え、その間にある中殿の 3 殿が 1 つの屋根で繋がっています。この華麗な彫刻が特徴の建築様式は、権現造りとして知られています。1635 年に建設された栃木県の日光東照宮が、権現造りでもっとも有名な見地宇久物の 1 つです。聖天堂は、その豪華な彫刻と建築様式から、よく日光東照宮と比較されます。

本殿後方にある奥殿の外壁には、動植物や子どもが遊ぶ様子や寓話に登場するワンシーンを伝える細かな彫刻が施されています。鮮やかな色彩と金箔の層が、本殿とその彫刻の印象的な外観をさらによくします。

聖天堂は 1735 年から 1760 年の間に完成されており、地元の人々からの寄付金だけで賄われました。本殿とその彫刻は、2003 年から 2010 年に修復作業が行われています。

少額の拝観料を払えば、本殿の奥まで行ってこの彫刻をより間近で目にすることができます。